AISEI-NEWS

63 愛整ニュース

公益社団法人 愛知県柔道整復師会

http://shadan-aisei.jp/

平成29年

2017年6月28日発行（通巻350号）

役員全員再選 森川体制新章へ

定時総会・情報交換会

5月28日（日）、ウェスティンナゴヤキャッスルにおいて、定時総会・情報交換会が開催された。

午後1時からの総会は、神谷徳太郎・山本正大両総務部員の司会進行のもと行われ、森川会長が28年度森川体制2期目を総括。施術管理者の要件強化・学校カリキュラムの改正など今回の制度改正の概略と展望などを説明するとともに、厳しい財政状況であっても会費の値上げはしないと方針を示した。

その後、逝去された藏冨恒彦顧問弁護士を含む物故者（4名）への黙祷と、19名の新入会員紹介が行われた。新入会員代表の平山貴博会員（笠寺）が代表挨拶をし、森川会長が歓迎と激励のことばを述べた。また長寿4名・喜寿5名の会員表彰と医療功労賞1名の表彰が行われた。

正副議長には、濵　巧（大曽根）・竹内健二（刈谷）両会員が選任され、825名中292名の出席（委任状提出者407名）により総会成立が宣言された。

早川総務部長の平成28年度事業報告・附属明細書の報告の後、6議案について審議された。

第1号議案　平成28年度貸借対照表承認の件
第2号議案　平成28年度正味財産増減計算書承認の件
第3号議案　平成28年度貸借対照表及び正味財産増減計算書の附属明細書承認の件
第4号議案　平成28年度財産目録承認の件
監査報告
第5号議案　土地有効活用の件
第6号議案　新役員選任の件

選挙結果（届出順）		
理事 有効投票722 過半数362		
①古賀　一	一宮	523票
②小林弘治	大曽根	543票
③春日井和幸	大曽根	545票
④長谷川貴一	熱田	566票
⑤長瀬理次	中村	515票
⑥筧　芳幸	岡崎	538票
⑦藤川和秀	豊橋	575票
⑧河合修宏	熱田	513票
⑨山口雅彦	鶴舞	511票
⑩早川岩雄	刈谷	543票
⑪森川伸治	大曽根	652票
監事 有効投票672 過半数337		
①金田圭一	鶴舞	569票
②内田光昭	一宮	577票

第1号から第5号議案いずれも挙手多数にて承認され、第6号議案の新役員選任の選挙では、業務執行理事11名と監事2名がすべて再選された。また、日整代議員・補欠代議員選挙も立候補者10名全員承認議決された。

新組織構成（役割分担）

会長：森川伸治

副会長：藤川和秀

部長	部員		
経理部	河合修宏	松田吉弘	小林　茂
保険部	山口雅彦	松浦洋雅	石川益郎
事業部	小林弘治	河合一弘	石川　真
柔道部	春日井和幸	夫馬喜久治	相羽秀昭

副会長：長谷川貴一

部長	部員		
総務部	早川岩雄	山本正大	神谷徳太郎
学術部	筧　芳幸	佐野　恵	大口明良
広報部	古賀　一	横井達典	岡田忠士
介護部	長瀬理次	倉橋健司	内田栄治

監事：金田圭一、内田光昭

支部長／**支部担当者**

支部長	総務	経理	保険	学術	広報	事業	柔道	介護
鶴舞	石田眞由美	松浦洋雅	菅沼英明	松浦洋雅	赤松徹浩	山本　篤	松浦洋雅	石田雅明	吉田良樹
笠寺	倉橋健司	植園博志	横井達也	竹上　勝	和家博明	平岩丈彦	矢野康治	青木保宏	竹上　勝
大曽根	濵　巧	押谷昌之	佐藤栄祐	中村　太	大口明良	横井達典	井上哲三	加藤彰一	平岩治郎
中村	池村三行	大橋史孝	伊藤浩喜	遠藤享昭	佐藤隆史	半谷和男	水谷文彦	黒氏　憲	伊藤貴啓
熱田	小林　茂	國保　晋	小林　茂	林　厚宏	山岸裕幸	南　東佑	水谷　浩	平原春一	白川恵三
一宮	中野一弥	野田龍一	小林康夫	木村雅克	井垣高治	櫻木憲一	神田達樹	夫馬喜久治	三谷　誉
半田	松田吉弘	木之本達明	鬼崎清幸	月野義明	山田直樹	室谷　勉	石川　真	森　正仁	桑子和也
刈谷	竹内健二	今野雅信	安原成浩	鈴木伸二	古田実機	岡田忠士	星野彰二	角谷竜彦	竹内健二
岡崎	石川益郎	山本正大	中村秀哉	永田重雄	石川英一郎	菅沼秀生	黒瀬広幸	作田新之助	井上　浩
豊橋	河合一弘	源田　実	河合一弘	永井宏和	宮坂智也	齋藤禎久	夏目隆義	河合敬次	瀧川和伸

各委員会委員（青字太字は担当副会長　緑字下線は委員長）

療養費適正調査委員会	藤川和秀	長谷川貴一	山口雅彦	早川岩雄	河合修宏	筧　芳幸
	古賀　一	小林弘治	春日井和幸	長瀬理次	内田光昭	金田圭一
	松浦洋雅	石川益郎	倉橋健司	月野義明	河合一弘	
組織強化委員会	長谷川貴一	藤川和秀	早川岩雄	河合修宏	山口雅彦	筧　芳幸
	古賀　一	小林弘治	春日井和幸	長瀬理次	中村　太	森　真由美
学術委員会	長谷川貴一	筧　芳幸	服部洋平	齋藤哲也（アドバイザー）		
災害対策委員会	藤川和秀	小林弘治	松浦洋雅	矢野康治	水谷文彦	水谷　浩
	石川　真	星野彰二	黒瀬広幸	夏目隆義	浅野勇康（災害対策委員統合代表）	
アスレチックトレーナー委員会	藤川和秀	小林弘治	井上哲三	相羽秀昭	井原正晴	
機能訓練研修委員会	長谷川貴一	長瀬理次	加藤博史	竹内健二		
IT委員会	長谷川貴一	古賀　一	横井達典	室谷　勉		
選挙管理委員会	浅野勇康	山本カヨ子	丸谷康男	蜂屋隆行	平岩一郎	笠巻貴史
	河内　保	三浦英樹	作田新之助	鎌田雅祐		
愛柔整介護ステーション等介護関連担当	長谷川貴一	長瀬理次				

愛知県接骨師会共済会

会長	藤川和秀
副会長	内田光昭
会計責任者	河合修宏
総務担当	小林　茂
監事	佐野　恵

愛知県柔道整復師連盟

委員長	森川伸治
副委員長	長谷川貴一
会計責任者	河合一弘
総務担当者	早川岩雄
監事	月野義明

支部担当者

石田眞由美　倉橋健司
濵　巧　池村三行
小林　茂　中野一弥
松田吉弘　竹内健二
石川益郎

本会顧問（敬称略）

藤川政人（参議院議員）
横井利明（名古屋市議会議員）
河原月夫（愛知県柔道連盟会長）
長谷川敦子（司法書士）
江崎鐵磨・丹羽秀樹（衆議院議員）
樋木充昭（愛知県医師会長）
石井雄介（弁護士）
佐久間啓晴（本会前会長）
久保田浩文・寺西　睦（愛知県議会議員）
米田　實（特定医療法人米田病院理事長）
遠山典志（公認会計士）
柳田松三（本会前副会長）

米田柔整3連覇　半田形ペア6連覇

第10回愛知県柔道整復専門学校柔道大会
第6回（公社）愛知県柔道整復師会少年柔道形競技会
第38回（公社）愛知県柔道整復師会柔道大会

6月18日（日）県武道館第3競技場にて、上記3大会が開催された。

10回の節目を迎えた専門学校大会は9時30分から県内5校が参加して行われ、米田柔整専門学校が五将で無段の選手の活躍などで全勝優勝を遂げ3連覇、9度目の栄誉に輝いた。同校の吉田剛章監督は、「白帯が頑張り3連覇できてうれしい。全国柔道整復学校協会柔道大会でも優勝を目指して頑張りたい」と試合を振り返り今後の意気込みを語った。

午後0時15分から行われた少年柔道形競技会は、棄権した笠寺を除く9支部の代表選手により「投の形」で競われ、昨年の全国大会で準優勝に甘んじ雪辱を期す半田チームが6連覇を果たした。回を重ねるたびにレベルが上がり、どのチームも鍛練した見事な技を披露した。

笠寺支部 11年ぶりの頂点に

午後2時15分からは本会会員の大会が行なわれた。開会にあたり森川大会会長は、今回の制度の大幅な改正が、真面目な本会会員にとって将来明るい希望の持てる改革になると確信していると述べ、「明日の施術に差し支えのないよう、支部代表として悔いの残らない試合をしてほしい」と挨拶。昨年優勝の大曽根支部加藤彰一選手が選手宣誓を行い、宣誓の最後に「柔道整復師に光あれ！」と柔道整復師の未来に希望を込めた。

10支部のトーナメントで行なわれた試合は、次鋒・中堅・副将に実力のある新入会員を擁しグレードアップした笠寺支部が圧倒的な強さで勝ち進み、決勝戦で岡崎支部を3-2で制し、11年ぶり4度目の頂点に立った。下山 太監督は、「毎週1か月半、チーム全員参加で練習できたことが優勝に繋がった」と述べた。

3大会はすべての関係者の協力のもと4時40分に終了した。

【専門学校柔道大会】▷優勝：米田柔整▷準優勝：中和医療
【少年形競技会】▷優勝：半田（取：牧園羽菜　受：石原梗雅）▷準優勝：大曽根（取：黒野 陸　受：米盛太一）▷3位：熱田（取：白根小雪　受：後藤しおん）
【本会柔道大会】▷優勝：笠寺▷準優勝：岡崎▷3位：半田・一宮
［形の演武］▶五の形：森 正仁（取・半田）・相羽秀昭（受・半田）▶固の形：今野雅信（取・刈谷）・角谷竜彦（受：刈谷）
［東海ブロック選抜］
監督：春日井和幸・大将：竹上 勝（笠寺）・副将：石黒貴彦（岡崎）・中堅：榎本雄一郎（笠寺）・次鋒：浅井友哉（一宮）・先鋒：岡崎高章（一宮）

全国初！労災新規指名説明会開催

6月7日（水）午後1時30分より3時過ぎまで、労災新規指名説明会が本会講堂で開催され、会員5名とともに会外10名の計15名が集まった。

本会から愛知労働局労災補償課に、本会の新入会員研修時の労災保険の説明会に会員外柔道整復師も参加する形での共同開催を提案し、労働局の実施計画に基づいて開催が実現することになった。

労災補償課・今井修司課長と室田健一労災給付調査官が来館。森川会長・長谷川副会長・山口保険部長が運営にあたった。

説明会は今井課長の開講挨拶後、以下の演題で行なわれた。

（1）労災保険給付の概要　室田調査官
（2）労災柔道整復算定基準の概要等　森川会長

行政と社団が共同で行なう今回のような説明会は全国社団初と聞く。これも本会への信頼の証左であり、今後も引き続き年4回程度行われていく予定である。